

## 第3次柏市生涯学習推進計画の総括意見

開智国際大学 名誉教授  
池 沢 政 子

第3次柏市生涯学習推進計画では、「地域における生涯学習社会の形成 ～学びあい 支えあうまち かしわ～」という生涯学習像を実現するために、「地域づくりへの参画支援」「子育て・親育ちの支援」「生涯学習情報の提供」を重点施策（3本の柱）として定め、その3本の柱に21の具体的な事業を設定し、計画を推進してきた。

ここでは、所管課による各具体的事業のまとめを踏まえて、重点施策ごとに第3次柏市生涯学習推進計画の総括を行う。

### 1 地域づくりへの参画支援について

出前講座やボランティア養成講座など、様々なスタイルで行われる講座の受講をきっかけに市民の興味・関心を促し、地域での活動につながるような取組みが行われている。

また、「柏のために何かをしたい」という若者を中心に作られたコミュニティの活動は、新たなプロジェクトの稼働や人材の発掘につながるが大いに期待される。地域活動への若者の参加は、他の住民の参加意欲にも好影響を与えるとともに、コミュニティを活性化してくれることから、他の事業においても参考になるものと思われる。

人生100年時代においては、少子高齢化を悲観するのではなく、いかに充実した毎日を健康に生きるかを考え、若者から高齢者まで全ての市民が元気で活躍し続けられるコミュニティをつくる必要がある。そのためには、学びの場である社会教育施設等を拠点に、楽しさをベースとした学びを入口とすることも想定しつつ、生きがいがづくりが地域課題に関わるきっかけとなるようなイベント等を行うことが有効である。これを足掛かりに、市民の活動を活発化させ、市民が主体的に課題を発見し、共有し、解決することが、持続的な地域づくりにつながっていくように注力していく必要がある。

また、地域の課題が多様化かつ複雑化していることを考えると、地域課題の解決に対して積極的に取り組んでいる市民や団体、あるいはこれから地域で何かを始めようとしている市民への支援を行政機関が個々に行うのではなく、連携し合うことで地域課題解決への取り組みの好循環を作っていくことが求められている。

### 2 子育て・親育ちの支援

家庭教育は全ての教育の出発点であり、子ども達の成長に重要な役割を果たすも

のだが、地域のつながりの希薄化や核家族化が進むことで子育てについて相談できる環境が少なくなり、育児に不安を持つ親が増えている。

柏市では、同じ不安を持つ親同士が集まり共に学びあう場の提供や、安心して子育てができる相談体制の充実などの施策を通して、親自身も成長できる環境づくりを進めている。

個々の事業においては、より身近で気軽な相談・交流の場を運営していくための工夫が様々に行われている他、転入人口の多い地域でのサービス不足への対応が始まっている。また、子育てを支援する各種の情報が的確に伝わるように、情報サイトの整備等が継続的に実施されている。

今後、さらに進行していく少子高齢化社会において子育て支援を充実させていくためには、子育て世代の親への支援の充実だけでなく、子ども達を全世代で、また地域総がかりで育てる視点を持つことが求められている。そして、その環境で学び、育った子ども達が地域の未来の担い手になっていくことを目指す、学びの循環の視点が必要とされている。

### 3 生涯学習情報の提供

生涯学習事業の推進を図り、地域での学びを充実させていくためには多くの市民に効果的に情報を提供することが重要である。

情報は、様々な学びや活動の場に一步踏み出すきっかけとなるものであり、時間的制約の多い現役世代や生涯学習に関心が低いとされる若年層へ参加を呼び掛ける手段としても有効と考えられ、今後も情報提供に係る環境の整備に尽力していく必要がある。

インターネット環境の整備やICT機器の急速な発展により、市民が生涯学習情報を得る手段も多様化している。時代の変化に合わせた学習機会の提供は、さらに重要性を増しており、未来志向で様々な方向性を検討していくべきである。